

A 152 長崎県内外における消化器ガン患者と他疾患患者の食習慣の差異について(II)
活水女短大 ○田中玲子 中里富美子 左薫子 古場久代
長大医学 森本和枝 小川英理子 井上寿子 内野チト 片寄真木子

目的 長崎県内外における、消化器ガン患者の食習慣について検討するために、食習慣調査票を作成し、病院入院患者1710名について調査を行った。

方法 調査は長崎市内病院3ヶ所、長崎県内病院4ヶ所、長崎県外病院6ヶ所、であった。調査表の内容は、おおよそ61項目の設問を用意し、これらの項目をさらに細分化し、符号化し、電算機ファイル化した。疾患の分類は医師の診断名に従った。

結果 消化器ガン患者は、一般患者に比べ、煮魚、揚げ魚、焼き魚を、肉類の摂取では、煮たり、揚げたり、炒めたものを大体毎日、摂る人にやや多く、さらに塩分の多い白菜漬物を好む人、アルコール類をよく摂取する人にも多かった。
また牛乳をよく摂る人には、比較的少なかった。